

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスクセンター北保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-19-20 プライムシティ1階
設立年月日	平成20年4月1日
評価実施期間	平成24年5月～平成24年9月
公表年月	平成24年11月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><b>【施設の特徴】</b></p> <p><b>1. 立地面から見た特色</b></p> <p>アスクセンター北保育園は、横浜市営地下鉄センター北駅から徒歩5分、港北ニュータウンを縦断する幹線道路に面したマンションの1階にある。設置法人は(株)日本保育サービスで開設5年目の保育園である。</p> <p>歴史博物館や大規模商業施設等も近く、周囲には園庭の代わりとなる緑豊かな大塚歳勝土遺跡公園を始め大小様々な公園が点在している。それらを活用し、目的に合わせて行先を変えて日々の散歩に出かけ、子どもたちの体力づくりや自然との触れ合い、社会体験等、多様な戸外活動を行っている。また、テラスでは、プランターを置いて栽培活動を行い、夏はプール遊びをしている。</p> <p><b>2. 多様なプログラム</b></p> <p>設置法人から派遣される専門講師による体操クラス、英語保育、リトミックや、職員による幼児教育プログラム、栄養士によるクッキング保育等が、子どもの発達に応じて計画的に取り入れられている。</p> <p><b>【特に優れていると思われる点】</b></p> <p><b>1. 体力づくりを意識した遊び</b></p> <p>子どもの体力低下が園の課題であり、今年度園目標に「体力づくり」を掲げ、発達に配慮した年間計画を立てて取り組んでいる。0～1歳児ではマット滑り台やボールプール、2歳児は坂道や階段の意識的利用や早歩き、3歳児はかけっこや縄跳び、くぐり抜け、4～5歳児は縄跳びやゴム跳び、腹筋や準備運動などを、遊びに積極的に取り入れながら基礎体力を育てている。特に年長児クラスでは、日常なかなかできない遊びをさせたいとの職員の思いから、遠くの公園まで行って木登りやダンボール滑りをしたり、アスレチックコースに出かけて、池に入ったりどろんこになって遊ぶなど、ダイナミックな遊びを展開している。</p> <p><b>2. 保育資質向上のための取り組み</b></p> <p>園内研修の一環として、3か月毎に共通の1冊の本を読むことを課題とし、読後全員で意見交</p>	

換し、保育現場でどう生かしていくかを検討している。また、職員が保育技術向上のための年間自己目標を立て、2ヶ月毎に振り返り、状況に応じて課題を修正しながら自己研鑽に励んでいる。その他に、園長や主任が3か月毎に全職員と面談して現状を把握、アドバイスするなど、職員が意欲をもって取り組めるようサポートしている。

### 3. 保護者会との連携

昨年度、保護者立ち上げによる保護者会が発足し、毎月のように会合を持ち、園に対する保護者会からの要望・提案に対して園が対応策を回答するなど、有効に機能している。園は、保護者会開催時は出席者の子どもを長時間保育で受け入れ、また保護者会での呼び掛けで保護者の園行事準備への積極的な参加があるなど、相互に協力してサービスの向上が図られている。

#### 【特に改善や工夫などを期待したい点】

#### 1. 環境整備について

保護者アンケート結果では、職員の子どもへの対応などで非常に高い満足度（ほぼ満足を含め100%）を得ています。一方、環境面では項目によってやや不満が20%程度あり、調査でもおもちゃの充実度・管理方法、清掃状況、備品の安全な収納方法など、整備が必要と認められた点がありました。建物の構造上不利な条件はありますが、子どもの生活環境改善の一層の工夫が望まれます。

#### 2. 地域との交流の努力を

開設5年を迎えましたが、地域との交流が依然課題として挙げられています。センター北駅ビル内には都筑区地域子育て支援拠点があり、都筑区役所のホームページには地域の自治会情報、都筑区社会福祉協議会にはボランティア情報が掲載されていますので、地域に支えられ、地域の中で育つ子どもを意識して、積極的に地域情報を取得し、地域と関わることが望まれます。

#### 3. 中長期的展望をもった園運営を

中長期計画を作成していますが、中期計画は単年度の保育上の計画・目標の作成に留まっていますので、中期的展望を持って計画を作成し、継続的に取り組まれることが期待されます。

#### 1.人権の尊重

- 設置法人の運営理念は『子どもの自ら伸びようとする力』『後伸びする力』『五感で感じる保育の充実を目指す』、園独自の目標は「元気に挨拶ができる子」「大切にできる気持ちを持てる子」「いろいろなサービスを楽しめる子」であり、それらは、利用者を尊重したものとなっている。
- 業務マニュアルに、子どもとの話し方・接し方の規定があり、全職員が読み込んでいる。職員会議においても子どもの名前を呼び捨てにしないなどを確認し合っている。保育中に子どもに対しての言葉づかいで威圧的と感じた時は、その場で園長が注意したり、会議で園長が事例を提案して話し合っている。
- 子どもが、友だちや職員の視線を気にせず過ごせる場所として、4歳児保育室についたてで仕切られたままごとコーナーが活用されている。威圧感なしに職員が1対1で子どもと話したり、プライバシーを守れるスペースとしては、医務室や廊下を利用できる。
- 個人情報取り扱いガイドラインがあり、個人情報の定義や保管書類、保管期間を取り決め、全職員に周知している。保護者に対しても、入園時にホームページへの写真の掲載や書類の保管などの個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 虐待の定義は虐待防止マニュアルに基づき周知し、職員は日々子どもや保護者に異常がないかを観察し、早期発見を心がけている。虐待が明白になった場合は、都筑区福祉保健センターこども家庭支援課、北部児童相談所に連絡し相談する体制がある。</li> <li>• 職員会議で、性差による役割分業や言葉づかいについて固定観念を持たないように話し合い、保育の中で性差による区別をしないように意識している。</li> </ul>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育室は背の低い収納棚や本箱などを置き、子どもがおもちゃや絵本などを自分で取り出して遊べるようにしている。0歳のフロアでは安全性を配慮し職員が子どもたちの様子に合わせておもちゃなどを選択している。</li> <li>• 「今日は何をするか」を子どもたちに問いかけ、子どもの自由な意見を受け止め遊びを決定している。</li> <li>• 乳児は保育室のベビーバットの柵や手押し車を使ってつかまり立ちや歩行が出来るようにしている。幼児は、朝・夕の自由遊びの時間では動きのある遊びのスペースと机上で静かに遊ぶスペースに分け、子どもが落ち着いて遊び込めるように工夫している。</li> <li>• 体操・リトミック教室では年齢に合わせたカリキュラムがあり、身体でリズムをとり、覚えた歌を子どもが自然に口ずさんでいる。</li> <li>• クラスごとに人参、インゲン豆、コスモス、トマトを栽培し、放射能チェック後、クッキング保育や給食の食材として利用している。</li> <li>• カブトムシを幼虫から育て、見たり触れたり昆虫図鑑調べたり、興味関心を深めた。</li> <li>• 天気の良い日には近隣の公園に出かけて、自然に触れる機会を積極的に取り入れている。今年度は年間園目標に「体力づくり」を掲げ、クラスごとの体力づくり目標を作成し、子どもの発達に応じた縄跳びや階段上り、腹筋運動など積極的に行っている。</li> <li>• 子ども同士のけんかでは、職員は危険がないように見守りながら、4～5歳児ではきっかけや双方の話を聞きながら、お互いが納得して自分たちで解決できるように支援している。</li> <li>• トイレトレーニングは、1歳児クラスからオムツ交換時にオマルにすわる習慣をつけることから始め、子どもの発達に合わせて、保護者と連携をとりながら個別に対応している。</li> </ul>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育課程は、職員面談や会議を通して常勤・非常勤全職員の意見を汲み上げ、年度末に次年度に向けて話し合って作成している。指導計画の作成にあたっては、個人面談、クラス懇談会、アンケート、保護者会などで得られた保護者の意向を反映して作成している。職員は、毎月の職員会議、でサービスの実施内容が基本方針に沿っているかを振り返り、確認し合っている。</li> <li>• 子どもの生育暦や家庭の状況などは決められた書類（入園児児童家庭調査票、食物アレルギー調査票、健康診断書など）を提出してもらい、面接時の記録と一緒に個別にファイルして保管し、日々の保育に活かしている。</li> <li>• 子どもの生活の連続性の視点から、乳児（0～2歳児）は個別の連絡帳に必要事項と子どもの様子を詳細に記載し、保育園と保護者との連携を密にしている。3歳児以上の希望者は、自由形式のノートを使用している。その他、保護者への連絡事項は、クラス毎にホワイトボードに書いて保護者に知らせている。また、デイリープログラムの書式を工夫して、「今日の様子」として、クラスでの取り組みや、子どもたちの様子などを記入し、玄関に掲示して、1日の生活の様子を分かりやすく伝えている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務マニュアルが整備されており、子どもの健康、衛生、安全面の管理をしている。</li> <li>・年2回行っている個人面談や連絡ノート、送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切に、保護者が気軽に思いを伝えたり、相談ができるよう配慮している。</li> <li>・入所時に配付する「入園のしおり(重要事項説明書)」に、苦情解決窓口として設置法人の苦情受付先と都筑区福祉保健センターの連絡先を明記し、さらに、第三者委員に直接申し立てができる様に氏名と連絡先を玄関に掲示するほか、横浜市福祉調整委員会のポスターも掲示している。苦情やトラブルは会議録に記録して全職員が共有し、再発防止に活かされている。</li> <li>・警備会社と契約を結び、防犯カメラ・通報ベルを設置し、散歩の時も緊急通報装置を携帯している。不審者情報は都筑区役所の防犯情報メールに登録をし、定期的に情報がFAX送信される情報ネットワークができている。</li> </ul>
<p><b>4.地域との交流・連携</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りのポスターを園外に掲示し、卒・退園児にもお知らせして招いている。</li> <li>・幼保小連携会議に参加して、年長児が都筑小学校の1、2年生と小学校体験で交流している。また、中川中学校、中川西中学校の職業体験を受け入れている。10月には都筑小学校の体育館を借りて親子運動会を行っている。</li> <li>・散歩マップを作成して日常的に散歩に出かけ、公園で出会う親子と挨拶を交わし、絵本の読み聞かせなどで交流を図っている。北山田のデイサービス「新緑のいずみ」と交流し、お年寄りと折り紙やゲームをして遊ぶなどの機会を持っている。</li> <li>・ボランティア受け入れ・実習生の受け入れのためのマニュアルがあり、実習生受け入れ時は、意見や感想を聞き、園の運営に反映させている。</li> </ul>
<p><b>5.運営上の透明性の確保と継続性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園のパンフレット「入園のご案内」にはサービスの詳細が記載されている。設置法人のホームページに園のサービス内容や保育の様子の写真を載せ、情報提供を行っている。</li> <li>・業務マニュアル内に就業規則があり、職員の守るべき倫理・服務規程を明文化して入職時に研修を行い、全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがある。</li> <li>・設置法人のホームページで経営、運営状況が公開されており、誰でも見ることができる。</li> <li>・設置法人が収集・分析した重要な情報は、園長会議で伝達され、園に持ち帰り全職員に報告している。園運営上の重要事項や、昨年の第三者評価受審で浮かびあがった重要課題は、職員会議で説明し、全職員に周知して改善に向け取り組んでいる。</li> <li>・設置法人は、運営について業界関連機関や専門家などから意見を収集し、運営に生かしている。</li> </ul>
<p><b>6.職員の資質向上の促進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っている。</li> <li>・設置法人が「保育士人材育成ビジョン」に基づき、年間研修計画を作成し、職員は個々に年間研修計画を作成して研修に参加している。年間園目標と合わせて2カ月毎に振り返り、レポートを提出している。園長や主任が職員の相談に乗りアドバイスをするなど、日常的に個々の職員の技術の向上に努めている。</li> <li>・園外研修は設置法人、区役所などからの情報を事務室に掲示し、園長の意</li> </ul>



向や職員本人の希望も含め、常勤・非常勤の区別なく受講できる仕組みになっている。受講者は研修後、レポートを作成し職員会議での報告などを行い、職員間で共有して日常の保育に活かしている。

- 園長は3ヶ月毎に職員と面談し、目標の設定、達成度の評価、職員の満足度、意見・要望などを聴き、職員のやりがいやモチベーションを高めるように努めている。


# 横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

## 評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の基本方針「子どもの自ら伸びようとする力」「後伸びする力」「五感で感じる保育の充実を目指す」をもとに、園独自の目標「元気に挨拶ができる子」「大切にしている気持ちを持てる子」「いろんなサービスを楽しめる子」を設定し、それらは、利用者を尊重したものとなっている。</li> <li>・運営理念を玄関に掲示し、職員は採用時に理念と基本方針について研修を受け、園長は職員会議や日常の保育の中で基本姿勢を職員に示して理解の浸透を図り、サービス内容が基本方針・保育目標に沿っているかを確認しながら子ども本位のサービス提供に努めている。</li> <li>・保育課程は、保育指針に沿って、全職員の意見を汲み上げて年度末に次年度に向けて話し合い、保育の基本方針や保護者の就労状況を考慮して作成しているが、地域の環境を反映するまでには至っていない。保護者への保育課程の説明は、入園式・進級式の後、クラス毎と全体運営委員会で年間計画とともにやっている。</li> <li>・保育課程に基づき、年齢別に年間指導計画・月間指導計画・週案を作成している。</li> <li>・指導計画には子どもたちの発想や意見を取り入れ、また、活動の展開も見込んで、柔軟性を持たせて作成している。一例として、5歳児では、お泊り保育の計画や栽培するものなどについて主体的に取り組めるように、子ども同士での話し合いを持ち、意見を指導計画に反映させている。</li> </ul>

## I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園前に園長、職員が保護者（子ども同伴）と面接し、子どもの遊ぶ様子を観察しながら、生育歴や就労予定、家庭状況、心配なことなどを聞き、「お子様の状況について」、「食物アレルギー確認表」などの書類を提出してもらい、家庭と子どもの状況を確認している。
  - ・得られた情報は、ファイリングして事務所に保管し、全職員は必要に応じていつでも見ることができ、日常の保育に活かしている。
  - ・慣らし保育は、徐々に在園時間を伸ばしていく事が保護者と子どものために有効であることを説明し、個々の状況に合った方法を提案している。
  - ・0、1歳児の新入園児の主担当は決めず、複数担当で保育している。
  - ・0～2歳児全員と3歳児以上の希望者には、連絡ノートで子どもの様子を丁寧にやり取りしている。
  - ・新入園児を迎えても在園児が不安なく過ごせるように、園長やフリーの職員がフォローに入る体制をとっている。
  - ・週案や月間指導計画はクラス毎に振り返りをし、子どもの発達状況に応じて作成している。
  - ・保護者からは、送迎時や個人面談で意向や要望を聞き、指導計画に反映している。
- <工夫している事項>
- ・デイリープログラムに《今日の様子》として当日のクラスで取り組みや子どもの様子などを記入し、玄関にクラス毎に掲示し、保護者に分かりやすく伝えている。

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・日々の清掃がマニュアルどおり行われているかチェック表で確認されておらず、清掃に不十分な点が見られる。
  - ・各保育室に、空気清浄機・扇風機・エアコン・加湿器を備えて、空気を循環させたり、窓や非常口を開けて適宜換気し、活動に応じた適切な温湿度管理に気を配っている。各フロアは消臭壁になっており、殺菌消臭剤も利用している。
  - ・建物の構造上、4、5歳児の部屋には排気窓以外は無いが、その他の保育室は窓からの採光は十分であり、必要時、照明器具も利用して採光を保っている。
  - ・クラス毎に活動内容や歌の時間をずらすなど、他クラスのデイリープログラムを事前チェックして、お互いの活動が騒音にならないように配慮している。
  - ・0歳児保育室に温水シャワー、沐浴設備を設置し、使用の都度、衛生管理マニュアルに沿って清掃を行っている。
  - ・各保育室は、背の低い収納棚やマット、机でコーナーを作ったり、柵で仕切ったりして、小集団で活動できるようになっている。食べる・寝る空間は同室で行っているが、食後手早く清掃をして、午睡空間を作っている。
  - ・早朝、延長保育、土曜日は合同で保育を行っているほか、0、1歳児と2、3歳児、4、5歳児それぞれが同じフロアで日常的に交流している。また、活動に応じて部屋を移動して異年齢で交流している。2、3歳児と4、5歳児の部屋は、柵や可動式の壁を移動して、大きなワンフロアの空間とすることができる。
- <コメント・提言>
- ・マニュアルに基づいて日常の清掃が行われているかを見直すとともに、おもちゃの消毒やエアコンフィルターの清掃など、週、月毎に行うべき項目を、チェック表の活用で徹底することが求められます。

### I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児は毎月、特別に課題のある幼児は3か月ごとに、個別指導計画を作成している。計画は子どもの発達状況に合わせて柔軟に見直し、重要部分は保護者と連携をとりながら、了承を得て変更している。
- ・保育所児童保育要録を小学校に送付している。
- ・入園後の成長発達は、児童票・健康調査票・身体測定表に記入し、入園時の面接シートと合わせ個別ファイルとして、事務室書庫に施錠保管し、必要に応じて職員はいつでも見ることができる。
- ・年度末には児童票などの記録をもとに、次の担任に子ども一人一人の重要事項を申し送りしている。



**I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み**



- ・園舎内はバリアフリーで、身障者用トイレを設置している。
- ・特に配慮を要する子については、都筑区福祉保健センターや、北部地域療育センター、法人内の発達支援担当、北部児童相談所のアドバイスを受けるなど、連携体制がある。
- ・障がい児や要支援児の個別指導計画を作成し、保育の振り返りや職員会議で子どもの状況を伝え、話し合う体制がある。
- ・職員は、障がいのある子について、介助の必要な部分と見守る部分とを見極めて対応しており、他の子どもたちが自然に手助けする姿が見られた。
- ・虐待防止マニュアルがあり、職員は日々の子どもの観察や、保護者が話しかけやすい雰囲気づくりを心がけ、虐待予防に努めている。虐待が明白になった場合は、関係機関に連絡し相談する体制がある。
- ・入園時に食物アレルギー確認表を提出してもらい、担任と栄養士が保護者と面談して、除去食申請に対する主治医意見書に従い、除去食・代替食を提供している。アレルギー児の保護者とは連携を密にし、変更があればすぐに対応している。
- ・外国籍の保護者に、文化や生活習慣の違いで配慮すべきことなどを確認して対応している。子ども達には、英語プログラムや絵本、運動会での万国旗作り、地図や写真を用いて外国文化への興味や関心を広げている。意思疎通が困難な保護者には、英語版書類の用意があり、英語の堪能な職員が対応している。

**評価分類**

**評価の理由（コメント）**

**I-6 苦情解決体制**



- ・苦情対応マニュアルがあり、第三者委員を交えて対応する仕組みがある。要望・苦情の受付担当者は園長で、第三者委員の氏名と連絡先、都筑区福祉保健センターの連絡先を「入園のご案内」に掲載したり玄関に掲示している。また夏祭りや運動会に第三者委員を招いて、保護者に紹介している。
- ・都筑区福祉保健センターや設置法人とは、問題があれば連携して対応できる体制がある。
- ・保護者の意見や要望は、行事後のアンケート、運営委員会や連絡ノート、送迎時の保護者への声かけで、汲み取りに努めている。昨年からは保護者会が立ち上がり、保護者会を通して直接意見・要望を聞く機会となっている。寄せられる様々な意見は園長に報告して迅速に対応すると共に、職員会議や回覧で全職員に周知している。
- ・苦情・要望は、職員会議録のなかに記録されている。

<コメント・提言>

- ・保護者からの意見や要望は、園にとって貴重な資源ですので、職員会議録とは別途に記録に残し、活用することが望まれます。

## Ⅱ－1 保育内容[遊び]



- ・おもちゃや絵本は、子どもが自由に取り出して遊べるように、手の届く高さの棚に置いている。4、5歳児のフロアーにままごとコーナーを設置し、0歳児のフロアーでは安全性を配慮して職員がおもちゃなどを出しているほか、ベビーベットの柵や手押し車を使って、つかまり立ちや歩行が出来るように環境設定している。
  - ・「今日は何をするか」を子どもたちに問いかけ、意見を取り入れている。ドッジボールやどろけい等、子どもたち自身でルールを決めたり、社会性が自然に身につけられるような遊びを工夫している。
  - ・クラスごとに人参、インゲン豆、コスモス、トマトを栽培し、放射能チェック後、クッキング保育や給食の食材として利用している。
  - ・カブトムシを幼虫から育て、見たり、触れたり、昆虫図鑑で調べたりして、興味関心を深めた。
  - ・天気の良い日には近隣の公園に出かけ、自然に触れたり地域を知る機会を積極的に取り入れている。近くに大塚・歳勝土遺跡公園があり、四季の移り変わりを感じ、自然に触れている。
  - ・お絵かき帳やクレヨンは3歳から個人持ちとし、自由に使うことができるようにしている。
  - ・異年齢で関わりを持てるように、複数のクラスで散歩したり、2歳以上の子どもたちがおやつを一緒にとったり、5歳児が0～2歳児の着替えや遊びを手伝っている。
  - ・体操教室では、年齢や発達に応じたカリキュラムが組まれており、それらを日常保育にも取り入れている。
- <工夫している事項>
- ・年間園目標「体力づくり」に沿い、クラスごとの目標を作成し、子どもの発達に応じた縄跳びや階段上り、腹筋運動など積極的に行っている。

## Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・職員は一人一人の食べる量を把握し、食が細い子どもには盛り付けを少なくしたり、好き嫌いがある子どもへは苦手なものは減らしたりして、完食の喜びが感じられるよう配慮している。乳児の授乳にあたっては、登園時に家での授乳時間を保護者に確認し、授乳時は抱きながら目を合わせて安心感を与えるようにしている。
  - ・米は提携農家から低農薬米を取り寄せ、他の食材も決まった業者から毎日届けられ、園長・栄養士が鮮度チェックを行っている。食器は強化磁器を使用し、プラスチックの箸・コップは定期的に入れ替えている。
  - ・1ヵ月に一度、園長・調理担当者・クラス担任が参加する給食会議で食事状況を報告し合って、調理法や味付け、盛り付けなどを検討し、次回の調理に反映させている。
  - ・離乳食、幼児食、アレルギー食の献立表を作成し、前月末に保護者に配付している。玄関に「今日の献立」の実物サンプルの展示も行っている。
  - ・眠れない子どもや眠くない子どもには、午睡を強制せず休息が大切であることを伝え、職員が側について横になり、見守っている。眠れない子どもや早く目覚めた子どもは、本を読んだり、お絵かきをして静かに過ごしている。5歳児は就学の準備として、1月から午睡を取りやめている。
  - ・トイレトレーニングは、子どもの状況に合わせて家庭の状況を聞き、保護者と連携をとりながら個別に対応している。
- <工夫している事項>
- 給食試食会を金曜日と土曜日の2回行うことで保護者が参加しやすくとともに、試食会前にアンケートを取り、保護者の食に関する質問に栄養士が説明している。質問内容や説明内容を参加できなかった保護者にも文書を配付している。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



・健康管理マニュアルに基づいて、子ども一人一人の健康状態を把握し、既往歴・予防接種状況などを個別ファイルに保管している。

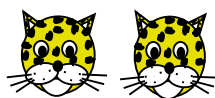
・年2回の健康診断と年1回の歯科検診を行い、子ども一人一人の健康診断・歯科検診の結果は「児童成長記録」に記録し、書面と口頭でそれぞれの保護者に伝えている。

・1歳児後半から歯ブラシにならし、2歳児クラスから毎食後歯磨き指導を行っている。歯科健診後、職員は医師から仕上げ磨きの方法の説明を受けている。

・入園のご案内に「感染症に関するお知らせ」を記載し、入園説明会・年度初めの運営委員会で、感染症の登園停止基準や保育中の発生時の対応などについて保護者に説明している。感染症が発生したときは、速やかに玄関のお知らせボードに掲示して保護者へ伝えている。

・保育中に感染症が疑われた時は、マニュアルに従って速やかに保護者に連絡して、医務室で子どもを休ませるなどの対応をしている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理  
[衛生管理]



・衛生管理マニュアルがあり、マニュアルの見直しは、職員の意見を集約して園長会議に持ち寄り、設置法人が行っている。  
・マニュアルには、施設・設備・玩具などの清掃消毒方法が明記され、全職員は入職時に研修を受けて、改定時は園長が職員会議で説明し、全職員に周知している。  
＜コメント・提言＞  
・担当した職員が「保育室清掃記録表」に実施状況を記録することになっていますが、項目によって記録がない場合があり、確実に記録するとともに、マニュアルに沿って適切に清掃が行われているかの再研修が求められます。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理  
[安全管理]



・安全管理に関するマニュアルがあり、ロッカーや家具は突っ張り棒などで固定し、転倒防止策を講じている。棚の上にラジカセなどを置く場合は、滑り止めシートを使用している。  
・地域、救急機関の緊急連絡先をリスト化して事務所内に掲示し、保護者の緊急連絡先は緊急持ち出しファイルとして保管され、早急に対応できるようになっている。  
・小さなケガでも園長に報告して保育日誌に記録し、保護者には口頭で必ず報告している。  
・玄関は電子錠になっており、来園者の顔を確認してから解錠し、不審者の侵入を防止している。警備会社と契約して、防犯カメラ・通報ベルを設置し、緊急通報体制を確立している。職員間で不審者の侵入時の合言葉を決め、不審者侵入に備えている。職員は、散歩の時も緊急通報装置を携帯している。

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ－３ 人権の尊重



・業務マニュアルに、子どもとの話し方・接し方の規定があり、全職員が読み込んでいる。職員会議で、子どもの名前を呼び捨てにしない、子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育をしていないか、話し合っている。  
・必要に応じてプライバシーが守れる空間として、医務室や廊下を利用している。  
・個人情報の取り扱いや守秘義務については、全職員は入職時研修を受け、全員が誓約書を提出している。ボランティアや実習生には、マニュアルに沿って説明し、誓約書を提出してもらっている。保護者には、入園時説明、ホームページへの子どもの写真掲載の可否については書面で確認を取っている。  
・遊びや行事では、職員が子どものやりたいものを聞き、自ら選ぶ気持ちを大切にし、グループ分けや整列などでも性別による区分はしていない。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ・運営理念・基本方針は、入園説明会や年度初めの運営委員会、クラス懇談会で保護者に説明している。園目標は玄関に掲示するほか、運営理念・基本方針・園目標を、園だよりやホームページにも掲載している。
- ・子どもの様子や情報交換は、乳児クラスでは個人連絡ノートで行い、クラスの様子は玄関カウンター下に掲示されたデイリープログラムで伝えている。
- ・個別面談を年2回（6月・2月）行い、その他、保護者から希望があればいつでも対応している。
- ・送迎時に相談を受けた職員が適切に対応できるように、園長が助言できる体制になっている。
- ・保護者が行事に参加しやすいように年度始めに年間行事予定表を配付・説明している。
- ・昨年度保護者有志立ち上げによる保護者会が発足し、今年度はすでに3回開催されている。保護者会会場として保育室を提供し、その間出席者の子どもは長時間保育で受け入れられている。

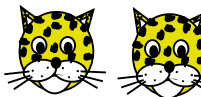
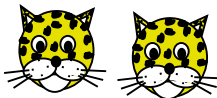
<工夫している事項>

- ・保護者会役員とは日頃からコミュニケーションを取り、会からの要望や提案には、園が対応策を回答し、相互に協力し合ってサービス向上を図っている。

<コメント・提言>

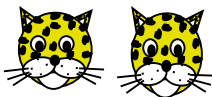


- ・相談内容は日誌などに記録し、必要に応じて職員会議などで対応策を検討されていますが、別途ファイル等に整理して、継続的なフォローができるような仕組みづくりが望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設への要望を把握するため、自治会に加入したいと考えているが、商業施設が多く、地域の情報把握が困難である。地域のコンビニなどに、夏祭り・運動会などのポスターを貼らせてもらい、地域の子どもの参加を呼び掛け、地域交流に努めている。</li> <li>・都筑区の園長会などで、地域の子育て支援ニーズについて検討している。10月に都筑区主催の「ほいくえん広場」に参加し、園のPRをした。</li> <li>・子育てや保育に関する講習・研修会は開催していない。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りなどに参加した地域の方から施設への要望を聞くなど、地域の子育てニーズを把握する取り組みが期待されます。</li> <li>・園では、給食試食会に地域住民の参加を募りたいと考えていますので、その機会を活用して、栄養士に話してもらうなど、専門性を生かした講習会などの企画が期待されます。</li> </ul>
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談は随時受けていることを外壁に掲示しているが、まだ地域の方からの相談はない。</li> <li>・都筑区子育て支援課、医療機関、北部地域療育センター、北部児童相談所と連携できる体制があり、園長が研究会などに参加し、職員会議で報告している。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談などの子育て支援サービスの提供について、地区センターや地域子育て支援拠点に掲示するなど、園の情報を地域に知らせる工夫が期待されます。</li> </ul>



評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りのポスターを園外に掲示し、卒・退園児を招いている。</li> <li>・公園で出会った親子に園児と一緒に絵本の読み聞かせを行ない、散歩や買い物で出会う方と、積極的に挨拶を交わすなど、地域の方との交流に努めている。</li> <li>・園長が幼保小連携会議に参加し、5歳児が、都筑小学校の1、2年生と小学校体験で交流している。また、中川中学校、中川西中学校の職業体験を受け入れている。</li> <li>・地域の行事や活動の情報が得られておらず、地域関連団体との計画的交流や、地域への備品の貸し出し等は行っていない。</li> <li>・横浜市歴史博物館や都筑消防署、ららぽーと、つくし野アスレチックコースなどの地域資源を保育に活用している。</li> <li>・北山田のデイサービス「新緑のいずみ」でお年寄りと折り紙やゲームをして遊んだり、系列園のセンター南園と、プールや散歩で互に行き来するなど交流がある。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園は地域の社会的資源という認識のもと、地域への施設開放や備品の貸し出しに取り組むなどで、より地域との関係が深まることが期待されます。</li> <li>・子どもや保護者が地域の活動に加わることができるように、地域からの情報を収集し、保護者に伝えることが望まれます。</li> </ul>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園のパフレット、設置法人ホームページや「入園のご案内」に、園の基本方針・利用条件・サービスの内容、職員体制などを掲載している。パンフレットを都筑区福祉保健センターに置き、ホームページに行事の写真を期ごとに更新する等、情報を提供している。</li> <li>・都筑区発行の情報紙「さがそう、えらぼうつづきっこ保育園・幼稚園ガイド」、民間の幼稚園保育園情報サイト「まみたん園ナビ」にも情報提供している。園の行事のポスターを、近隣のコンビニや商店に貼ってもらっている。</li> <li>・問い合わせがあった時は見学もできることを伝え、園長が入園のご案内に沿って説明している。</li> <li>・見学は可能な限り利用希望者の都合に合わせて、子どもと同じ年齢のクラスが見やすい時間帯を案内している。</li> </ul>
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア受け入れマニュアルに基づき、受け入れ時には園の方針、利用者への配慮等を十分説明することになっているが、受け入れ実績が無く、担当はまだ決めていない。</li> <li>・実習生受け入れガイドラインがあり、園の方針や子どもへの対応を説明し、職員には受け入れ方針を説明している。実習生受け入れ時の担当は園長で、育成は各クラスの担任としている。</li> <li>・昨年2月に実習生2名を受け入れ、事前打ち合わせを持ち、プログラムについても検討している。実習最終日に、実習生と職員で反省会を行い、職員自身が実習時を思い出して初心に帰るなど、意見や感想を保育に活かしている。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを積極的に受け入れ、意見や感想を聞いてサービスの質の向上に活かすことが期待されます。</li> </ul>

## 評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="180 253 485 282">V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は、園運営に必要な人材や配置状況が不足の場合は、設置法人に要請して人材補充を行っている。</li> <li>・人材育成計画は、設置法人が「保育士人材育成ビジョン」を作成している。職員は、入職時の代表研修で法人理念について話を聞き、冊子「明日への保育」を読んで、求められる職員像を周知している。園長が、園内研修、ミーティング、職員面談で園目標や保育について話をしている。</li> <li>・職員は年間自己目標を立て、年間園目標と合わせて2カ月毎に振り返り、レポートを提出している。年に3回自己査定をし、その都度園長と面談して評価を受け、評価結果を次の研修計画や自己目標に反映している。園長が日常的に相談を受け、アドバイスをするなど個々の職員の技術の向上に努めている。</li> <li>・職員は研修後レポートを提出して職員会議で報告し、共有して保育で実践している。</li> <li>・常勤職員と、非常勤職員の組み合わせなどを考慮して、主任がシフト表を作成している。</li> <li>・非常勤職員にも、職員会議や園長会議などの必要事項は文書または口頭で知らせており、文書には確認サインをしている。</li> <li>・主任が非常勤職員の指導担当者として、保育の方法や補助の仕方など必要な指導を行ない、また、意見や要望を聞いて、職員間のコミュニケーションの仲立ちをしている。</li> </ul> <p data-bbox="695 981 959 1010">&lt;工夫している事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園長の提案で、今年度の園内研修として、4～6月で全職員が1冊の本「死を招いた保育」を読み、この園で今できることという視点で7月に勉強会を行った。7～9月は、職員提案の「0、1、2歳児保育」の本読みが始まっている。</li> </ul>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は年3回行われる自己査定と園長面談で、具体的なサービス見直しを含め自己評価を行っている。</li> <li>・設置法人は、保育技術の指導を外部専任講師や専門家から受ける仕組みを作り、各園は、園長会議で得た他園でのサービス事例を参考にして職員会議で話し合い、実践している。</li> <li>・年間指導計画、月間指導計画、週案、保育日誌に評価・反省欄を設けて定型化している。指導計画は子どもの育ちや意欲、取組過程などについての視点で振り返り、子どもの様子によっては無理をせず次月も引き続き取り組んでいくなど、評価・反省を計画に反映させている。</li> <li>・職員は、各自前月の振り返りをもとに次の目標を立て、2カ月毎に立てる自己目標の達成度と合わせて評価し、継続して改善に取り組んでいる。</li> <li>・職員会議やミーティングで、職員の振り返りをもとに話し合い、課題を見つけて継続的に改善に向けて取り組んでいる。話し合いの中から、今年度は「体力づくり」を課題として、年間計画を立てて取り組んでいる。</li> <li>・毎年第三者評価を受審し、全職員で第三者評価項目を活用して運営理念や保育課程に添って各自が自己評価した後、園の自己評価としてまとめている。</li> <li>・昨年度の自己評価を含む第三者評価の結果は、エントランスに置き、誰でも見るできるようになっている</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準を明文化している。</li> <li>・園長は可能な限り現場職員に権限を委譲し、緊急時や園長不在時には担当職員の判断に任せて、事後、園長に報告することとしている。</li> <li>・職員は、業務改善の提案などは、主任、クラスリーダー、園長に口頭で伝えている。職員からの改善提案があり、早番が確実に出勤できるようにする連絡と対処についてのルールを決めた。</li> <li>・園長は、年3回の自己査定時の面談以外にも必要に応じ随時職員と個別に面談し、職員の満足度・要望を確認している。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則に、職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し、全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがあり、連絡先を職員の控え室に掲示している。</li> <li>・他施設での不正事案などの情報は設置法人より随時連絡があり、園長会議でも話し合って園に持ち帰り、職員会議で話し合いの場を設けて、職員のモラルアップを図っている。</li> <li>・牛乳パック、空き箱やトイレットペーパーの芯などの廃材をストックし、子どもたちの製作や、おもちゃや教材・遊具の作成に利用している。卒園制作として5歳児が牛乳パックで椅子を作り、カバーをつけてままごとコーナーで使用している。</li> <li>・職員は、使用していないクラスの電気や冷・暖房を消す、電気機器のコンセントを抜いて帰宅するなど、節電を心がけている。</li> <li>・園全体でエコキャップ活動に参加し、今までの活動で50人分のワクチンになったことを掲示している。</li> <li>・法人としての決算・運営状況・リサイクルやエコへの取り組みについては、ホームページに掲載している。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキャップ活動や節電など、園での取り組みを保育課程に反映し、子どもの発達に応じた計画的な取り組みとして実践することが期待されます。</li> </ul>
<p><b>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・基本方針を玄関に掲示し、園長は、職員会議などで、理念や基本方針に基づいた保育について話している。</li> <li>・園長は、日常の保育や会議での発言などを通し、また職員との個別面談で、職員の理念・基本方針などについての理解度を確認している。</li> <li>・保護者会からの意見要望や、アンケートに寄せられた意見などについて、園長は保護者と継続して意見交換をしている。重要な変更について、その理由や実施方法などを、職員会議で論議し、保護者に説明している。</li> <li>・夏祭りや運動会などの園の大きなイベント時は、園内全職種の職員で取り組んでいる。</li> <li>・設置法人にで主任育成コース研修があり、人材育成が計画的に行なわれている。</li> <li>・主任は各クラスを見回り、個々の職員の業務状況を把握して、係分担や、シフトの調整、指導・助言をしている。また常に職員に声をかけるなどし、特に非常勤職員の面談を担当して要望も聞き、職員の心身の健康状態に気を配っている。</li> </ul>
<p><b>VI-3 効率的な運営</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人で収集・分析した重要な情報は、園長会議で伝達され、全職員で共有している。</li> <li>・園運営上の重要事項や、昨年度の第三者評価を受審する中で浮かび上がった課題は、職員会議で職員に周知して改善に向け取り組んでいる。具体的には、収納棚の安全性を確保したり、物置の購入を設置法人に要請した。</li> <li>・中長期的計画は、今年度の保育上の計画・目標の作成に留まっている。</li> <li>・設置法人で、運営について業界関連機関や専門家などから意見を収集し、将来を見据えた新たな運営やサービスプロセスについて常に検討している。また、それに見合った人材の育成を図っている。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な展望を持って、園独自の施設運営の方向性を定める計画の作成が求められます。</li> </ul>

# 利用者家族アンケート

施設名:アスクセンター北保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## 結果の特徴

### ◇ 調査対象

調査時点での在園児数70名、全保護者64家庭を対象とし、回答は33家庭からあり、回収率は52%だった。

### ◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

### 【特徴の記述】

- ◇ 総合満足度（満足・やや満足を合計した数字を満足度、不満・やや不満の合計を不満足度とする）
- ◇ 比較的満足度の高い項目

#### 1) 施設の基本理念や基本方針の認知

知っている・やや知っているの合計は85%であり、その中で理念や方針の賛同は、100%となっており、施設が運営委員会や懇談会等を通して十分に保護者の理解を得ていることが伺える。

#### 2) 問2 入園した時の状況

平均満足度95%である。入園前の説明が十分説明されていると言える。

#### 3) 問3 保育園に関する年間の計画について

平均満足度は、94%であり、なかでも「クラスの活動や遊びについて」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについて」の2項目は100%の満足度である。

#### 4) 問6 園と保護者との連携・交流について平均満足度は94%である。

### ◇ 比較的満足度の低い項目

#### 1) 問3 保育園に関する年間の計画について

「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」には、18%の不満足度であり、検討が望まれる。

#### 2) 問5 保育園の快適さや安全対策について

平均満足度は80%であるが、「施設設備については」で25%、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気について」は18%の不満足度を示しており、改善が望まれる。



## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	15%	70%	9%	6%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	54%	46%	0%	0%	0%	0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	70%	24%	0%	0%	6%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	52%	42%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	39%	52%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70%	30%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	55%	36%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	73%	27%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

#### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	55%	42%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	24%	61%	3%	0%	12%	0%
	その他:					

#### 問4 日常の保育内容について

##### 遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	55%	45%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	58%	36%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	39%	48%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	45%	42%	9%	0%	3%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	55%	42%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	42%	58%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

##### 生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	85%	12%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	73%	18%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	70%	27%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	58%	33%	0%	3%	6%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	45%	15%	0%	3%	21%	15%
	その他: まだ、その時期でない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	61%	39%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	39%	39%	18%	0%	3%	0%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	21%	48%	21%	3%	6%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	24%	58%	12%	6%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	30%	52%	9%	6%	3%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	36%	55%	9%	0%	0%	0%
	その他:					

### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	45%	48%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	70%	24%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	45%	42%	6%	0%	6%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	33%	64%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	45%	48%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	85%	12%	0%	0%	3%	0%
	その他:					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	67%	27%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	48%	18%	0%	0%	15%	18%
	その他:アレルギーでないので分からない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	91%	6%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	55%	39%	0%	0%	6%	0%
	その他:					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	58%	42%	0%	0%	0%

# 観察方式による利用者本人調査

## アスクセンター北保育園

### ◇0 歳児

#### 室内遊び

保育室には、子ども達が目で追って楽しめるように色とりどりのおもちゃがぶら下がっているメリーや、ボックスの穴にはめ込むおもちゃなどが用意されている。

はいはいで、目当てのおもちゃに近づき、取ろうとして一生懸命手を伸ばしている子どもがいる。寝返りができるようになった子は、転がって壁にあたると反対方向にまた転がっている。寝返りができることを喜んで、繰り返し楽しんでいるようだ。

何やらずっと泣いている子がいて、職員が抱っこしてあやしていたが、お母さんが恋しかったのか、お母さんが迎えに来て、笑顔になった。

#### 食事

食事の準備ができるまで、椅子に座って「給食の歌」を職員と一緒に歌い、パンダのパペットにあわせて笑顔で手遊びをしている。

授乳が終わってベッドで寝ている子を除いて、二人が離乳食後期、一人が完了期の食事を食べている。三人で1つのテーブルを囲み、職員が二人付いて介助している。

子ども達は、手づかみで食べたり、スプーンを使っておかずをすくおうとするがじれったくてもう一方の手が出て、手で口へ運んだりしている。まだ、口に入るよりこぼしてしまう子が多いが、職員は子どもたちに手を添えながら、一人一人のペースを見て「おいしいね～、そう、もぐもぐ」などと言葉をかけていた。

#### 授乳

登園前の授乳時間を確認して、時間を見計らって職員が調乳を始める。職員は、子どもを抱きかかえて、「〇〇ちゃんお待たせ、ミルクですよ」と言いながら、左手で頭を支えながら子どもと目を合わせ、哺乳瓶を口に含ませていた。子どもは職員目をじっと見て、ミルクを飲んでいて。

#### 午睡

お昼の時間は、パジャマに着替え、部屋の明かりを落として、布団で職員にトントンされたり、体をさすってもらったりして眠りについた。職員は5分ごとに呼吸のチェックをしていた。

### ◇1 歳児

#### プール遊び

子どもたちは、たらいと小さなビニールプールに入っている。今年2回目のプールという



ことで、水に慣れずにずっと泣いている子や、じょうろやコップで、水を汲んだりあげたりしてニコニコしている子、職員が撒く霧状の水が顔にかかって拭っている子等、子ども達の様子もさまざまである。職員は一人一人に、「気持ちいいね、だいじょうぶだよ」などと声をかけていた。掃出し窓から順番に保育室に入り、着替えをする。「明日もプール入る人？」と職員が声をかけると、泣いていた子どもも「はい」と手を挙げていた。

### 食事

食事の準備ができるまで、職員が「お壁ぺったんして」と声をかけると、子どもたちは壁に背中をつけて並んで座り、絵本を読んでもらったり、手遊びをして待っていた。テーブルの準備ができると、一人ずつ椅子に座って配膳を待つ。「給食の歌」を歌って「いただきます」をして食べ始める。スプーンを上手に使える子や、手が先に出て手掴みで食べ始めた子もいる。職員は、「上手だね、スプーンを持ってみようね」などと声かけをしていた。

### 排泄

職員は、食事の後、パジャマに着替える際、おまるに座って排泄できるか様子を見てから、おむつの交換をしていた。

### 午睡

職員が分担して着替えと布団敷きを行い、眠そうな子どもから横になるよう促し、体をさすったりしている。入眠時間を記録し、10分ごとに呼吸チェックをしていた。なかなか眠れない子どもには添い寝をしたり、泣いている子は職員がずっと抱いてあやしていた。

## ◇2 歳児

### プール遊び

プールの準備では、「手伝って」「よく頑張ったね」「先生、なんか変?」「できないときは何ていうんだっけ?」と、やり取りしながら保育室で水着に着替え、玄関からベランダのプールに出た。職員は水質チェックを行い、子どもたちはお尻を洗ってから大きいプールに入った。水鉄砲やじょうろで水を掛け合ったり、職員が作る水のトンネルをくぐったり、大きなプールでワニさんになってはいはいしたりと、歓声を上げて遊んだ。小さいプールでは、子どもたちが水鉄砲で遊んでいた。水が苦手な子も職員に「〇〇ちゃん、強いね」と言われ、顔の水を何度も拭いながら得意そうな顔をしている子もいた。シャワーで体を洗ってタオルを巻いて保育室に戻り、マットの上でプールバックから着替えを出して着替えていた。

### 食事

4つのグループに分かれて、手を洗って席につく。給食のワゴンが来るまで、職員がグー・チョコキ・パーの手遊びをする。チョコキができない子が多く、みんなで練習している。配膳ができたら職員が、「ごはん・おかず・スープ・お茶ありますか」と声をかけ、元気に「はい、あります」と答えていた。給食の歌を歌って「いただきます」をして食べ始めた。

野菜嫌いの子どもには、職員が「少し食べてみようよ」と声をかけ、口に入れていた。全部食べ終わった子どもが「スープおかわりください」と職員に声をかけ、おかわりをもらっ

ていた。調査員に「お皿ピカピカになったよ」と、嬉しそうにお皿を見せる子もいた。食事が終わった子から食器をワゴンに戻し、同じ種類のお皿を重ねていた。順番に歯磨きをして、職員に仕上げ磨きをしてもらっていた。

### ◇3 歳児

#### 自由遊び

子ども達が集まって玩具の棚からブロックを出して、マットの上で遊んでいる。「見て、これでバーンって打つの」と言った子のブロックは、銃のような形になっている。「もっといっぱいつけるんだ」とパーツをつなげていた。

テーブルでは、お絵かきや粘土遊びをしている。「何作っているの?」と尋ねると、手の中の粘土をくるくるとまるめて、「カタツムリ」「僕は恐竜」。特徴を捉えて作っている。他の子は、「これね、お弁当」と言って、粘土のケースを弁当箱に見立てて何かを詰めている。「ドーナツでしょ、うめぼし、から揚げだよ!」調査員が「おいしそうね」と声をかけると、ニコッと笑った。

#### 食事

当番の子どもがエプロン、マスク、バンダナをして、テーブルを拭き、箸とコップを持って来て、テーブルの上に配っている。皆で「いただきます」の挨拶をして、食べ始める。「おなかすいたね」「プールはいったから」などと言いながら、おかずを箸で器用につまんでいる。

食の進まない子に、「〇〇ちゃん、無理して食べなくてもいいよ」と職員が声をかけ、コクリとうなずいた。

### ◇4~5 歳児

#### 朝の静かな時間

4 歳児は、テーブルに座ってめいめいに本を読んでいる。5 歳児はお絵かきをしたり、塗り絵をしたり、ひらがなのワークをして、静かに過ごしている。

色鉛筆でずっとお絵かきをしていた子が、「見て、こんなにいろんな色のハート書きちゃった」「ほんと、上手にかけたね」「1、2、3・・・10、12、13 も描けちゃった」。ハートの数を数えていたが、職員が、「あれ、10の次が変だよ」というと、もう一度慎重に数え直して、「12だから、もう一個書こう」と言ってピンク色で書き足して、ニコッと笑った。

遊び  
テーブルごとに塗り絵コーナーやお絵かき、紙粘土のコースターづくりコーナーなどができ、子どもたちは、それぞれ興味のあることに参加している。「コースターにはね、このきらきらしたのをくっつけるんだよ」と、実際にやってみせてくれて、「力をね、いれすぎちゃダメなの」とコツも教えてくれる。

ソファでは、二人の子がとっても楽しそうに、絵本の「ミッケ!」を覗き込んでいた。

5歳児のプールの順番が回ってくるまでの間、職員も一緒にハンカチおとしのゲームをしている。みんな鬼になりたくて、鬼の子の走る様子をじっと見ている。職員が鬼になると、子どもたちの目が一層キラキラして、夢中でその動きを目で追っていた。

プールに入れない子が、4歳児の隣で塗り絵をしており、細かいところも丁寧に塗り分けていた。

### **食事**

4歳児と5歳児が一緒のテーブルに着くことになっているが、当日は5歳児がプールから出るのが後になったので、4歳児が先に食べ始める。時計の針が9になったらごちそうさましようね、と言われている。めいめいがおしゃべりして食べていると、5歳児が来て、一気ににぎやかになる。お当番がコップと箸を配って、5歳児も「いただきます」をして食べ始める。

以上

## H24 年度

### 第三者評価事業者コメント（アスクセンター北保育園）

#### 【受審の動機】

信頼のある公正な第三者機関により、専門的かつ客観的な視点で評価していただくことで、日頃の保育を振り返ることができ、また今後の課題を見出す有効な手段だと感じたので、今年度も引き続き受審させていただきました。

評価機関の選定については、開園当初より同じ機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることで、昨年度までとの比較が継続的に行えると考えております。

運営主体の理念である「利用者に本当に求められているサービスを提供する」ことが実現できているか見つめるべく、評価受審に臨みました。また、利用者調査により保護者のニーズを把握することは、職員にとっても、自己・自園を見直し、今後の保育運営に反映させるまたとない機会だと考えております。そして、評価結果をホームページで公開することで、地域に開かれた保育園としての信頼を得るとともに、保護者が安心して自らの判断で保育園を選択するお手伝いが出来ればと考えています。

#### 【受審した結果】

前回の受審から約1年、今年度の新しいクラス体制にも慣れてきた時期に評価を受審したことにより、全職員で1年間の振り返りと、今後の園の方向性を再確認することができました。

今年度の園目標の一つに「体力づくり」を掲げていることを評価していただきました。園庭がない代わりに、基礎体力の育みと、時にはダイナミックな遊びができるよう、目的に応じて公園を選んで活動しています。今後も引き続き取り組んで参ります。

また、昨年度発足した保護者立ち上げの保護者会も、毎月のように会合を開き、園と保護者の距離をさらに縮める場として機能しています。保護者から要望や提案を頂くほか、園の行事には積極的にお手伝いしていただけるなど、相互に協力できる体制となって参りました。今後も継続的な支援をして参ります。

こうした利用者・第三者の評価を通して、日頃の保育サービスが着実に向上していると実感しております。今後も引き続き、外壁の掲示物などを通しての情報発信や、地域イベントに参加するなど、地域に根付いた保育運営ができるよう、積極的に取り組んで参る所存です。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し

上げます。